

金の燭台の間を歩く人の子としてのキリスト

聖書：啓 1:9—2:1

- I. 金の燭台の間を歩く人の子としてのキリストのビジョンを見るために、わたしたちは主の勝利を得た使者、すなわち、霊の中において、召会の立場に立つ者たちとなっていて、イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者とならなければなりません——啓 1:9-13, 20:
- A. 初期の召会生活の実行は、一つの都市に一つの召会、すなわち、一つの都市にただ一つの召会があるという実行でした。いかなる都市にも二つ以上の召会はありませんでした——使徒 8:1, 13:1, 啓 1:11。
- B. 一の真の立場、すなわち、神の選ばれた場所にあるわたしたちの集会には、四つの特徴があります——参照、申 12:5:
1. 第一に、神の民は常に一であるべきです。彼らの間に分裂があってはなりません——詩第 133 篇、ヨハネ 17:11, 21-23, I コリント 1:10, エペソ 4:3。
 2. 第二に、神の民がその中へと集まるべき唯一の名は、主イエス・キリストの御名であり、その実際はその霊です。他のどの名を用いることも宗派になり、分裂します。これは霊的な淫行です——マタイ 18:20, I コリント 1:12-13, 12:3 後半。
 3. 第三に、新約で神の住居、彼の住まいは、特にわたしたちの霊の中に設けられています。それは、わたしたちのミングリングされた霊、再生され、神聖な霊によって内住されているわたしたちの人の霊です。わたしたちは神を礼拝する集会において、わたしたちの霊を訓練し、あらゆることを霊の中で行なわなければなりません——ヨハネ 3:6 後半、ローマ 8:16, II テモテ 4:22, エペソ 2:22, ヨハネ 4:24, 啓 1:10, I コリント 14:15。
 4. 第四に、わたしたちは神を礼拝するとき、祭壇で表徴されるキリストの十字架を真に適用し(申 12:5-6, 27)、肉、自己、天然の命を拒絶し、ただキリストをもって神を礼拝しなければなりません(マタイ 16:24, ガラテヤ 2:20)。
- C. わたしたちはイエスにある患難に共にあずかっている者です:
1. 「イエスにある」が意味することは、わたしたちが内住するイエスの霊、すなわち苦難に対して十分な強さを持つ人の霊によって、ナザレ人イエスに従うとき、わたしたちは苦難を受け、迫害されるということです——使徒 16:6-7。
 2. 今日わたしたちが苦難を受けているとき、主イエスはわたしたちの中で、またわたしたちと共に苦難を受けています——9:4-5, ヘブル 13:13。
 3. わたしたちは多くの患難を経過して王国へと入ります——使徒 14:22。
 4. わたしたちはキリストの復活の力によって、彼の苦難にあずかり、十字架につけられた生活をし、彼の死に同形化されることができます——ピリピ 3:10, コロサイ 1:24, 雅 2:8-9, 14。
 5. わたしたちは死に至るまでも自分の魂の命を愛さず、兄弟たちのために自分の命を捨てるべきです——啓 12:11, I ヨハネ 3:16。
- D. わたしたちは、イエスにある王国に共にあずかっている者です:
1. 王国は召会生活であり、忠信な信者たちはその中で生活し、命において成長し、命において造り変えられます——マタイ 16:18-19, ローマ 14:17, I コリント 3:7, II コリント 3:18。

2. わたしたちは王国の生活を実行するために、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、義、信仰、愛、平和を追い求める必要があります——Ⅱテモテ 2:22。
3. わたしたちは王国の生活を実行するために、罪を犯している兄弟たちを顧みて、彼らを挽回する必要があります——マタイ 18:15-22。

E. わたしたちは、イエスにある忍耐に共にあずかっている者です：

1. わたしたちは、サタンの疲れきらせる策略に抵抗しなければなりません——ダニエル 7:25。
2. わたしたちはキリストの中に住むとき、彼の忍耐についての言を守り、忍耐を持って苦難と反対されることに耐えます——啓 3:10。
3. わたしたちは、自分が享受して経験したキリストの忍耐をもって、忍耐することができます——Ⅱテサロニケ 3:5。

II. 人の子としてのキリストは大祭司であり、「足まで垂れた衣を着て、胸に金の帯を締めおられ」(啓 1:13)、彼の人性において諸召会をはぐくみ、彼の神性において諸召会を養います：

A. 人の子は人性の中にあり、金の帯は彼の神性を表徴し、胸は愛のしるしです：

1. キリストは腰に帯を締め、神聖な働きのために強められて(出 28:4．ダニエル 10:5)、諸召会を生み出しました。しかし、今や彼は胸に帯を締めて、彼の愛によって生み出した諸召会を顧みています。
2. 金の帯はキリストの神聖な活力としての彼の神性を表徴し、胸はこの金の活力が彼の愛によって、また彼の愛をもって活用され、動機づけられて、諸召会を養うことを表徴します。

B. キリストは人の子として彼の人性において諸召会を顧みて、諸召会をはぐくみます——啓 1:13 前半：

1. 彼は燭台のともし火を整えて、ともし火を正常にし、わたしたちをはぐくみます。それは、わたしたちが幸いになり、喜び、心地よくなるためです——出 30:7．参照、詩 42:5，11：
 - a. 主の臨在は、柔らかくて温かい雰囲気をもたらし、わたしたちの存在をはぐくみ、わたしたちに安息、慰め、いやし、清め、励ましを与えます。
 - b. わたしたちは召会の中で主の臨在のはぐくむ雰囲気享受着して、命の養う供給を受けることができます——エペソ 5:29．参照、Ⅰテモテ 4:6．エペソ 4:11。
2. 彼は燭台のともし火の芯^{しん}を切り取り、わたしたちが輝くのを妨げるすべての消極的なものを切り取ります——出 25:38：
 - a. 芯の焦げた部分、黒くなった部分は、神の定められた御旨にしたがっていない、切り取られる必要のあるものを表徴します。例えば、それはわたしたちの肉、天然の人、自己、旧創造などです。
 - b. 彼は諸召会の間のすべての違い(過ち、短所、失敗、欠点)を切り取り、諸召会が本質、現れ、表現において同じになるようにします——参照、Ⅰコリント 1:10．Ⅱコリント 12:18．ピリピ 2:2。

C. キリストは彼の神性において、彼の胸の金の帯で表徴される彼の神聖な愛をもって諸召会を顧みて、諸召会を養います——啓 1:13 後半：

1. キリストは彼の三つの時期の満ち満ちた務めの中で、すべてを含むキリストとしてのご自身をもってわたしたちを養います。それは、わたしたちが神聖な命において成長し、円熟して、彼の勝利者となり、彼の永遠のエコノミーを完成するためです。

2. 歩くキリストとして、彼は各召会の状態を知るようになります。そして語る霊として、彼は燭台を整え、新鮮な油をもって、すなわちその霊の供給をもって燭台を満たします——2:1, 7。
3. わたしたちは彼の行動にあずかり、彼の顧みを享受するために、召会の中にいなければなりません。
- III. 主は天的に太古からおられます。それは、彼の頭と髪が白い羊毛のように雪のように白いことによって描写されています——啓 1:14 前半. ダニエル 7:9. ヨブ 15:10. 参照、雅 5:11。
- IV. 主の七つの目は、火の炎のようです。それは、見つめるため、観察するため、探るため、照らすことによって裁くため、注入するためです——啓 1:14 後半. 5:6. ダニエル 10:6 :
- A. キリストの目は地上における神の行動と活動のためです。なぜなら、七は神の行動における完全の数字であるからです。
- B. 主の目が火の炎のようであるのは、おもに彼の裁きのためです——7:9-10. 啓 2:18. 19:11-12。
- V. 主の足は、炉で精錬された輝く青銅のようです。これは、彼の完全で輝く歩みが、彼に神聖な裁きを執行する資格を与えることを表徴します——啓 1:15 前半. エゼキエル 1:7. ダニエル 10:6。
- VI. 主の声は、大水の響きのようです(啓 1:15 後半. 参照、14:2)。それは、ごう音、全能の神の声の響きであり(エゼキエル 1:24. 43:2)、厳粛で荘重です(参照、啓 10:3)。
- VII. キリストは諸召会の輝く使者たちを握っている方です——啓 1:16 前, 20 :
- A. 使者たちは諸召会の中の霊的な人たちであり、イエスの証しの責任を担う人たちです。
- B. 使者たちは星のように、天的な性質を持ち、天的な地位にいて、主からの新鮮なメッセージを持っており、彼の民に与えます——2:1 前半。
- C. 導いている人たちは彼の右の手にあるので、しりごみする必要は全くありません。キリストは確かに彼の証しのために責任を取ります。
- VIII. キリストの口から鋭いもろ刃の剣が出ています。それは彼の識別し、裁き、殺す言葉であり、消極的な人や物事を対処するためです——啓 1:16 中. ヘブル 4:12. エペソ 6:17。
- IX. キリストの顔は、太陽が力を帯びて輝くように輝いています(ダニエル 10:6)。それは、裁く照らしのためであって、王国をもたらします(啓 1:16 後. 10:1. マタイ 17:2. 参照、マラキ 4:2. 士 5:31. マタイ 13:43)。
- X. キリストは最初の者また最後の者であって、彼が決してご自分の働きを途中で終わらせないことをわたしたちに保証します。キリストはまた、生きている者であって、彼のからだの表現としての諸召会を生かし、新鮮にし、強めます——啓 1:17-18 前半。
- XI. キリストは、死とハデス[陰府]のかぎを持っています——啓 1:18 後半 :
- A. 死は集める者であり、ハデス[陰府]は看守です。しかし、キリストは十字架上で死を廃棄し、彼の復活の中でハデス[陰府]に打ち勝ちました——Ⅱテモテ 1:10. 使徒 2:24。
- B. わたしたちが訓練して自己を否み、十字架を取り、自分の魂の命を失うことによって、主に地位、機会、道を与えて、主にわたしたちの間で動き行動していただいている限り、死とハデス[陰府]は彼の支配の下にあります——マタイ 16:18, 21-26。